

**九州めっき処理技術の
パイオニア**

株式会社熊防メタルは、70年以上の歴史を持つ九州めっき処理技術のパイオニア、熊防防錆工業株式会社からの分社独立というかたちで熊本の地に創業した。幅広い技術力・対応力を継承し、自動車・半導体業界をはじめ、液晶関連、医療機器、工作機械、照明機器、音響機器、インテリア関連など、多彩な作業分野のニーズに応えている。とくに液晶ディスプレイ製造装置などに向けて、静電気を防止する機能を持つ独自の処理方法「BSE-T処理」を開発したことにより、業界の注目を集めている。さらに最大4mクラスの大物製品に対応する超大型処理設備を保有していることも、同社ならではの魅力である。

こうした明確な強さにより、最近では関東・関西のメーカーからもオファーを受けるなど、全国的な認知度を獲得しつつある。

研究・開発・挑戦で先端産業をリードする

である。当然、反対の声も多かった。

それでも、3代目となる前田博明氏には、客先の要望を聞いて回るなかで、液晶関連が伸びるといふ見通しがあった。なにより「他社にない技術を」という信念が氏を動かした。

2001年、前田氏は熊防防錆工業にIC事業などを残すかたちで分社独立し、現在の熊防メタルを創業。前田氏が社長に就任し、念願の超大型めっき槽「コスモライン」が導入された。

提案型の技術開発

新体制をスタートさせるにあたり、前田氏が目指したものは、「コスモライン」導入をはじめとするオンリーワン技術、そして「提案型の技術開発」だった。

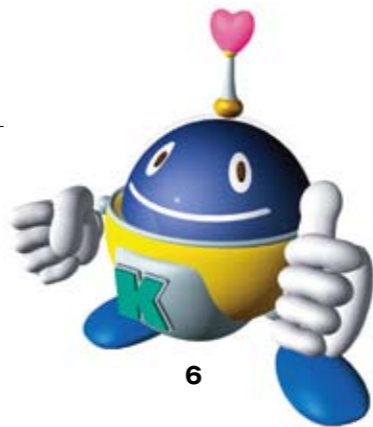
大手自動車メーカーの工場移転などにより加熱する第3次自動車産業ブームの真つただなかにあつた九州の地。「シリコンアイランド」とも「カーアイランド」とも呼ばれるこの激戦区においてなお技術で知られる企業となるため、優秀なエンジニアの採用に努め、前田社長自身が中心となる技術部隊を構築した。

中核を担う技術開発チームは、客先からのニーズを取り込むことにより、先に述べた「BSE-T処理」をはじめ、導電性アルマイト技術の「コスモコート」や、アルミ電解研磨の「コスモブライト」など、



1

株式会社 熊防メタル



6

オンリーワンへの挑戦

祖父が創業した熊防防錆工業は評判の良い自転車のめっきにより、すでに鹿児島まで受注が広がっていた。2代目となる父親が、東京のめっき会社で修行し、ニッケルめっきなど当時の最新技術を持ち帰ったことにより、大手農機具メーカーや自動車メーカー、総合電機メーカーからの依頼にも応えられるようになった。この頃から、オンリーワン技術を追い求める方向性が明確になり、他社にない設備の導入・技術の開発が進められた。

ところが、当時まだ先行き不透明だった「大型めっき設備」の導入が懸案事項として持ち上がったことで岐路に立たされる。折しも、ITバブルの崩壊によるIC事業の不調から深刻な業績不振に陥っていた社にとっては相当なリスク

1. 超大型めっき槽「コスモライン」
2. 小物から超大物まで対応可能
3. 代表取締役社長 前田博明氏
4. 独自の研究開発を軸にした表面処理技術
5. 熊本から全国へ、そして世界へ
6. イメージキャラクター「熊防くん」



3



2



4



5

Company Profile

株式会社 熊防メタル
所在地：熊本県熊本市長嶺西1丁目4番15号（熊本総合鉄工団地内）
TEL：096-382-1302 FAX：096-349-8510
担当者：代表取締役社長 前田博明
事業内容：【表面処理全般】アルマイト・導電性アルマイト・3価クロメート亜鉛めっき・無電解ニッケル・KBM処理・電解研磨・貴金属・その他のめっき
エミダス会社・工場詳細情報：
<http://www.nc-net.or.jp/emidas/gaiyou.php?74009>
※「エミダス工場検索」のキーワード検索「熊防メタル」で検索できます。



会社情報

編集部/近江匡宜

数多くの独自技術を開発している。また、前田氏を中心に自ら動き回る技術部隊によって、細やかなクレーン対応が可能となり、幅広い産業分野の大手工場から高い評価を得ている。

飽くなき挑戦により、新たな価値を創造し続けてきた同社。将来的には、韓国をはじめとするアジア各国との競合・協業なども視野に、グローバル展開に向けて動き出している。九州めっき技術のパイオニアは、熊本から全国へ、そして世界へ羽ばたいてゆく。